



21世紀への基盤づくり

代表取締役社長

日渡 惺朗

技報の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

バブル景気の崩壊と円高は当社にも及び、ここ1,2年はその対応に苦慮いたしました。政府当局の減税による個人消費の拡大政策および自動車の国内販売の増加などに助けられ、昨年の後半から景気はしだいに回復期に入ってまいりました。しかしまだその足取りは鈍い感じがいたします。その中でこの度の震災の影響は予測困難なものがあります。

従来から特殊鋼の需要はその相当部分を自動車に依存しており、この基調には当面著しい変化はないものと思われ。これは大幅な円高による自動車産業への影響と、それにとまなう海外生産の増加が今後もわが国特殊鋼業界に重大な影響を及ぼすことを意味しております。しかもこのような傾向はここ当分続くと見なければならぬでしょう。

当社は本年を21世紀において特殊鋼メーカーとして存続しうる諸施策を策定する元年と位置づけ、さらに前年に引続きコスト改善のための構造改革を一層進めていく所存です。またユーザーの皆様方からの様々なご要望にもより迅速に対応できるようさらに研究・開発体制を整備してまいります。

当社は高純度鋼を生産する技術において些か自負するものがあり、これをベースとして軸受鋼などの分野において実力を発揮してまいりました。今後もこの技術を生かし“独自性ある画期的な鋼の開発”を推進するとともに、新たなニーズに迅速に対応した製品の開発を展開する所存です。すでに述べましたように当社の販売は自動車や軸受をはじめとする自動車関連業界に大きく依存しており、研究・開発面でもその対応はきわめて重要であります。一見平凡ではありますが表面欠陥のない鋼の開発はきわめて重要であると考えております。また今後の日本の産業構造を考えると大きな発展が予想されるエレクトロニクス産業関連材料、地球環境問題関連材料さらには人口の高齢化に対応した健康産業関連材料など多くの分野の材料開発にも努力してまいります。

現在世界経済の中における日本の製造業の立場は激変しており、それに伴いユーザーニーズも大きく変化しつつあります。今後はその対応とさらに先取りを積極的に推進したいと存じます。

最後になりましたがこの度の阪神大震災に際しまして被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。当社は幸いにして多大の被害を受けることもなく、生産への影響はほとんどありませんでした。この災害の影響は甚大かつ長期化が予想されますので、当社といたしましても復旧・復興対策の中で全力をあげて為し得る貢献をしていきたいと考えております。

今後とも皆様方のご支援・ご鞭撻をよろしく申し上げます。